

Shalom-network

発行 NPO法人シャローム事務局 〒960-1241 福島県福島市松川町字東原17-3
TEL/FAX024-567-5322
http://nposhalom.net/ info@nposhalom.net 発行責任者 大竹静子

絆づくり支援センター始まる

8月1日より東北絆づくり支援センターが渡利に開設されました。これは、郡山の中間支援NPOである「うつくしまNPOネットワークセンター」が受託した事業を東北地区担当としてシャロームが再受託したものです。市町村等の関係機関と連携して、避難者同士、被災市町村と受入市町村間で絆を深めるのに必要な総合コーディネート、避難者の生活利便・居住環境の向上、生活再建に向けた支援を行うとともに災害支援スタッフの育成等を図る事業に取り組んでいます。

8月20日、東北センターの絆づくり事業の第一弾として、東北地方最大の一次避難所である「あづま総合体育館」で昔ながらの夏祭りを行いました。当日は天候にも恵まれ、たくさんの方々が参加して賑わいました。あづま体育館に避難している皆さんは盆踊りのルーツである南相馬市の方が多く、ご当地セミプロの渡辺さんにお囃子つきで生歌を歌っ



ていただきながら、みんなで踊ることができました。仮設住宅にこれから順次入居していきますが、一次避難所の夏になごりを惜しみながら、きづなを確認することができました。また、ご協力いただいたNPOの皆さんとのきづなも深めることができました。

次の事業として仮設住宅のアセスメントを中心に事業を進めています。仮設周辺の環境改善のアイデアと、実際に住んでいる住民の方々の要望を具現化するため意見のヒアリングを進めています。被災者のみなさんの生活環境が住みよいもの

の一日もはやくなるよう、さまざまなアイデアを出していきたいと思えます。

また、赤い羽根共同募金の助成が決定し、震災の被災者支援はもとより、原子力災害に対する避難、疎開等のお世話も始まりました。専属スタッフとなった吉野さんのもとには、全国より避難情報がぞくぞくと寄せられてきます。そのコーディネート業務も重要な業務のひとつになっていきます。

シャロームの事業は現在多岐に渡っていますが、今後の福島の行く末を思いながら、努力していきますので、会員の皆様にさらなる支援をお願いいたします。

代表 大竹 静子

夏のメモ帳

9月にはいると、これまでの猛暑も嘘のように1日1日秋の色を深めていく。例年はないほど米の出来がよいとか。今年の植物の成長は、なぜか良いものが多いうように思える。その話題になると私もそんな気がする。人と相づちを打つてくれる人が多い。夏の暑さのせい、か、それとも放射能のせい、か、定かではない。早場米の出荷が始まった。旧町村単位で放射能の検査を実施している。マスコミは、検査した結果、「微量のセシウムは検出されましたが、微量で基準値の500には至らないため基準値内で安全ですから安心して食べてください」という。今年の米に不安を持つ人たちは、去年の米を求め殺到する。自分で作る実った稲穂をみて、孫には送ってやれない、我々は年だし、自分たちで食うしかない。人災が二次被害を生み、不安と恐怖は、人知れず差別を生み出す。今まで何人の原爆での被爆者が人知れず病気にあひえ、差別されて来たことか。歴史の教訓をどう学ぶのか。それは、今の私たちに与えられた課題である。(T.O.)

**内部被爆を減らす
「梅ドみサロン」
開催**

9月5日、双葉町仮設住宅・さくらにおいて、「梅ドみサロン」を行いました。梅ドみサロンとは文字通り、梅、ドクダミ茶、味噌を皆で頂きながら、語らうという集会です。

梅ドみは、当団体の代表である大竹が、広島DJの会代表・甲斐さんの思いを一刻も早く被爆者である福島県のみなさんに伝えたいという思いで二次避難所に物資を運びながら、推進してきた運動です。

仮設住宅は高齢者の構成比率が高く、語ら



い、集う場所にお茶や漬物はかせません。梅ドみ運動は、まさに日々の生活の中で、体に良いものを意識的に採り、少しでも内部被爆を減らそうという、広島被爆者の食生活における英知の結晶です。広島の人々は、これらを実践しながら、戦後の広島で暮らしてきました。

福島に住まう私達も、国や県の情報のみに頼るのではなく、自分の体、家族の健康、こともの未来は自分で守らなければならぬ時代になってしまったのです。

運動は、徐々に口コミで仮設住宅にも広まってきました。そしてついに、今回双葉町の仮設住宅でのサロンの開催となったわけです。

震災直後から物資を送り続けていた飯館村では、社会福祉協議会を窓口にして、仮設住宅、県営借り上げ集合住宅をすべて網羅しお伝え

したいと考えています。

**UDセンター
「ヒマワリ栽培事業」
結果報告**

去年からUDセンターでは、大波地区の上組集落営農倶楽部の皆さんと協力して食用ひまわりの栽培をしてきました。

今年もひまわりは順調に育ち、8月の始め頃ついに満開となりました。私たちは地域の人たち、夢工房の仲間たちと共に、畑のひまわりの絵を描いたり写真を撮るなどしてひまわりを楽しみました。

これらの作品は、大波ひまわり祭での作品や、公募された作品と共に審査され、大波小学校前にある「かあちゃん市」建物内で表彰・展示されます。作品は地区のJAのお祭りや、施設もちぎりワークで開催されるバザー、12月に行われるシャローム主催のコンサートなどでも展示される予定です。

す。

ひとしきり美景を楽しんだあとは収穫がおこなわれました。UDセンターでお借りした畑で栽培したひまわりだけでなくも休憩小屋いっぱいになるくらいの量を収穫することができましたが、福島市内だけでなく、二本松や大玉村など、ボランティアの皆さんのご協力でも栽培していただいたひまわりを合わせてかなりの量のひまわりを集めることができました。

ご協力いただいた皆さまには心から感謝いたします。

倶楽部では例年、収穫した種から搾った油を使いドレッシングを製品化してきました。しかし、今年は原発事故の影響により、今年採れたひまわりの種を例年通り商品化するかどうかは検討中とのことです。

商品化はさておき、収穫した種は今後油に加工し、放射性物質がどれほど含まれているかを検査していただく予定です。

去年のひまわりの栽培事業の頃と比べると、今年は地震や、それに続く原発事故によって



我々の生活は大きく一変してしまいました。しかし、ひまわりは変わらずつとも綺麗な花を咲かせ、次の世代へと伝えるべく、豊かな種を実らせていました。

(文・玉川)

教養講座「地元学」を考える

私も実際に仏画コースを体験したので、普段使い慣れていない、筆を使っている、楽しんで頂くという企画となりました。

私もお実際に仏画コースを体験したので、普段使い慣れていない、筆を使っている、楽しんで頂くという企画となりました。

第91回「仏画と布かたり体験」
 講師：海老沢 東山さん
 海老沢 朋水さん

平成23年7月23日の土曜日に第92回地元学が開催されました。講師には仏画師の海老沢東山さんと、書家の海老沢朋水さんをお呼びし、指導のもと実際に仏画と写経を参加者の皆さんに体験してもら

講師の海老沢東山さんは、「何度も書き上げていくうちに自分の絵になる」とおっしゃっていました。努力と集中力が身についた今回の地元学でした。

平成23年8月27日の土曜日に行われた第92回地元学では、これまででチェルノブイリへの支援・交流を長年に渡り行って来た甲斐等さんを広島からお招きして、自身が提唱する「梅ドミ」運動等の放射能から身を守るための方法について講演をして頂きました。

講演は、「福島県全域で直ちに避難を！」という強い言葉からはじまりました。むしろパニックを起こして問題を顕在化させ、全域で放射能の除染をするべきだと訴えておられ

第92回「ただちに解毒を！放射能から身を守る『梅ドミ』運動のすすめ」
 講師：甲斐 等さん

そして現在福島県に住む人々に対しては、広島で長年培われた生活の知「梅ドミ」の普及も強く提唱していました。

「梅ドミ」の支援物資は、甲斐さんがほぼ一人で用意し、福島へと送ってくださっています。

まちなか夢工房では、これら支援物資を皆様へとお渡ししていますので、ぜひ皆さまのご自宅でも「梅ドミ」運動を実施してみてください。

第93回「共(とも)生(いき)」
 講師：八幡 嘉晃さん

ふくしまの現状とこれからを、我がことのように真剣な語り口で講演して頂きました。私自身もこれからどう生きるか考えるきっかけを頂きました。

土曜日に行われた第93回地元学では、講師として現在もちづりワイクの施設長をされている八幡嘉晃(よしあき)先生をお招きしました。

「共(とも)生(いき)」という題の今回の講演では、先生のこれまでの経験から生まれた疑問である「福祉とは」「福祉の実践とはどうあるべきか」について語って頂きました。

3月11日に起こった大地震後、障がいを持った方の苦難は想像以上のものでありました。住み慣れた場所から避難して、避難所での生活を営む障がい者。特に自閉症の方たちは、避難所に留まることのできず、場所を転々としていたそうです。皆自分のことで精一杯で余裕が無いのです。八幡先生は「地域の絆」「互助のちから」の大切さを思い知らされたそうです。

「生まれたとに障がいを持つ事になった中途障がい者の

第94回「地元学を考える」のご案内

「ここは戦場なるぞ」
 講師 村野井 幸雄氏
 (詩人 会津美里町在住)

23年10月22日(土) 13:30~15:00
 まちなか夢工房 2階 オアシス広場
 参加費 500円(飲み物付き)

ご申し込みがあれば手話通訳をご用意することも出来ます。

<< 講師プロフィール >>
 pen name 蛭原由紀夫
 福島県現代詩人会名誉会員、詩誌「詩脈」主催
 日本ペンクラブ会員、日本現代詩人会会員

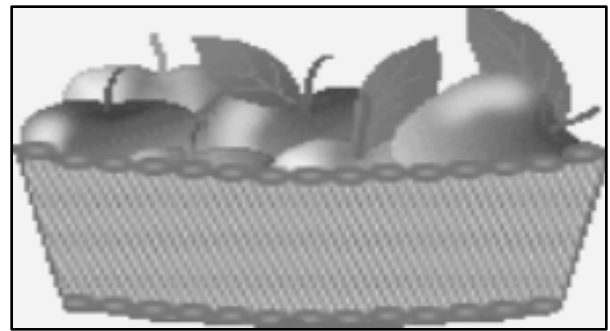
(以上文責 玉川)

活動報告

- 7月16・18日 石彫ワークショップ 延72名
- 7月23日 第91回地元学 「仏画と布かたり体験」 27名
- 7月23日～25日 仏画と布かたり展示会 延83名
- 8月20日 県北NPO復興会議夏祭り 16名
- 8月27日 第92回地元学 「ただちに解毒を！放射能から身を守る『梅ドミ運動』のすすめ」 講師 ジュノーの会 甲斐 等氏 68名
- 9月4日 大波城址ひまわり収穫
- 9月5日 双葉仮設住宅「梅ドミ」サロンと物資届け（40件） 3名
- 9月6日 ふくしま会議（震災関連全県会議） 3名
- 9月7日 ふくふく会議（”県北会議） 3名
- 9月10日 第93回地元学 「共（とも）生（いき）」 30名 講師 八幡 嘉晃氏（もちずりワーク施設長）

活動予定

- 9月15日 門前市
- 9月17日 もちずりワーク創立10周年記念会
- 9月23日～25日 日全国障害者スポーツ大会・大分大会 佐藤智美さん100m走、200m走出場予定
- 9月23日 とっておきの音楽祭inふくしま
- 9月24日 涼風コンサート インド古典音楽 シタール演奏 菊の里まつり
- 10月22日 第94回地元学を考える 「ここは戦場なるぞ」 講師 村野井 幸雄さん



感謝を含めて今年もやります！オープン8周年記念！

パン全品半額セール!!!

い・く・り・か・ほ・ち・の・秋のパンもぞくぞく登場

先着50名様にご来店プレゼント

「1年間パン全品10円引き」オリジナルエコバッグ

豪華商品が当たる抽選会

年にいちど 2011.10.27(木) 1日限り!

店内の全ての焼きたてパンがレジにて半額!!!

人気のパンはすぐに売り切れ！午前中のご来店がおススメ♪

障害者コミュニティサロン
 まちなか夢工房
 オープン8周年記念イベント
 パン全品半額セール!!!!

日時：2011年10月27日（木）

年にいちど 一日限り！
 店内のすべての焼きたてパンが
 レジにて半額！！
 豪華賞品が当たる抽選会開催！！
 先着50名様にご来店プレゼントも！

編集後記

チェルノブイリの原発事故からちょうど四半世紀、今回福島原発事故が起きた。メディアなどで特集も組まれる機会が多いが、最近になって私自身もチェルノブイリ事故にまつわるアートに触れる機会があった。悲痛な悲鳴を上げる女性の泣き顔。不気味な光を発しているように描かれた失われた町、プリピャチ。マスクで顔が隠れていながら、不安げな顔が分かる消防署員達…。恐ろしい絵や写真ばかりだが、チェルノブイリ事故の影響を受けた人々の切実な心境が手に取るように分かる。

原発事故後、行政や市民団体が独自の調査を行った結果を相次いで発表し、シーベルトやベクレルという聞き慣れなかった単位もいまや福島県民ならば大抵の人はその意味を理解できるようになった。一方で、インターネットの匿名掲示板などでは福島市民を中傷する心無い書き込みが日夜平然と行われ、私のまわりでも、他県に訪れた際に車に「福島に帰れ」とイタズラ書きをされた人がいた。海外でも、ベルギーのサッカーのサポーターが日本人選手をフクシマと野次った事件などは記憶に新しい。

科学的な見地から警鐘をならすのも一つの手かもしれない。しかし、今回アーティストやジャーナリストたちが残した芸術作品から、見えない放射能の影響を改めて（多少なりと）“理解”することができたのはとても貴重な経験だった。

仏教の教えには、「大悲(だいひ)」という言葉がある。「他者の大いなる悲しみを、自己の悲しみとして感じる」という気持ちを表す言葉である。私たちは時として、「悲」の想像力を失ってしまう。いくら理詰めで言われても、遠くの地、それどころか、わずか数百キロ程度離れた地の「悲」、たった数ヶ月前の「悲」を想像できず、過ちをくり返してしまう。

そんな時、「悲」を切り取ったアートが、想像力を喚起してくれる。我々に元々備わっているはずの「大悲」を呼び覚ましてくれる。そう、我々には、人の身におきたことを自分のことのように感ずることができる素晴らしい能力があるのだ。

福島に住む我々にとって、汚染を知識として把握することは欠かせない。しかし、今感じている「大悲」を世界に伝える手段を考えていくこともまた、後世にとって等しく重要であると思う。(R・A)